

## まえがき

本書は 2005 年度にアジア経済研究所が実施した「ドイモイ下ベトナムの『国家と社会』」研究会の報告書として作成されたものである。本研究会は 2 年間の予定で設立されており、本書は次年度の成果の土台、基礎となる中間報告書としての性格を持つ。

本研究会には専門員として古田元夫先生(東京大学大学院教授)にご参加いただいた。古田先生の存在がなければ一家言持つ気鋭の先生方を委員として迎えることはできなかったのではないだろうか。ここに記して感謝の意を表したい。

また、ご多忙の中、時間を割いて研究会に参加、原稿を執筆下さった委員の先生方、慣れない事務処理でとまどう私をサポート下さったアジア経済研究所庶務および事務の方々、そして、関係したベトナムの方々に感謝の意を表したい。

くしくも今年はベトナム政治上最大イベントの一つであるベトナム共産党第 10 回大会が開かれる。現ベトナムの公的権力を掌握する同党がどのような指導部と方針を選択するのか。2020 年には基本的に工業国になるとの目標実現を目指す現政権は、工業化・近代化路線を推し進めつつ、文化や環境保護を重視する姿勢をも見せている。今年実現しそうな WTO 加盟のインパクトはその「バランス感覚」を突き崩すのか、あるいは逆に強めるのか。いずれも「国家と社会」の関わり合いの中からその現実が生み出されてこよう。新たなステージを迎えるベトナムの「国家と社会」。これをめぐる問題を考える上で、さらには現在ベトナムが進めるドイモイ路線とその下で起きている諸現象に対する理解を深める上で、役割の一端を本書が担うことを願う。

2006 年 3 月

編 者